すきsuki コミュニケーション ～第1回講座の内容を紹介します～

2018.9.29(土) 10:00～12:30 とびうめアリーナ 1階研修室1 にて

1. 開校式
2. 講話「私が幸せを構想すると、未来がもっと楽しくなる」
   福津市副市長 松田 美幸 氏
3. 振り返り&交流会

☆塾生の感想☆

当たり前の風景にすること
子ども達にはその風景(女性活躍の社会)を見せたいので、今、やる。

トイレ
・男性中心の国とは思っていたけど、(議事堂の女性)トイレの数(1つのみ)が衝撃でした。
・そもそも女性がいることを想定されていないことにびっくり!でもそれが現状である。

20 20 30
・女性の管理職比率。少ないとは思っていたが、今現在は13%。世界でも最低レベルだということを知れた。
・30というところが実に理想が低くて驚いた。

YouthQuake(ユースクワイアット)
日本のレベルの低さに驚いた。女性大統領や30代参画など日本はまだ先のことのように思えた。

カナダの首相(内閣)
多国籍、LGBT、身体の不自由な方、男女の人数の差が少ない。本当に色んな方が政治に参加していて日本とはちがいすぎて感動しました。

計画を知る
要望はもちろんだけど、すでに市・県・国がどんな計画をしているか、何のためにしているかを知った上で意見を持つことは大変必要なことだと思いました。

まちづくり
今まで自分が町づくりに参加するという想いはなかったけど今日の松田さんの話を聞いて、自分たちが変えていくのが政治なんだなあと、初めて??参加するいうイメージがわいた。

パブリックコメント
初めて知った。

松田副市長の講話詳細は、次ページより!

～ 第3回講座のご案内 ～

日　時:2018年11月17日(土) 10:00～12:00 ※12:15～13:30 交流会(自由参加)
場　所:プラム・カルコア太宰府(太宰府市中央公民館) 4F多目的ホール ※駐車場有
持参物:筆記用具、講座ファイル
託児変更〆切:2018年10月31日(水)17時まで
弁当注文〆切:2018年11月10日(土)17時まで
申込・問合せ先:
メール sukisuki.ohanashikai@gmail.com Tel 080-9060-1248 (連絡担当芳野)

交流会は、講師陣も参加!
子連れOK!
お弁当(持参でも注文でも可)お菓子を食べながら、
みんなで交流しましょう!

すき suki コミュニケーション ～第2回講座の内容を紹介します～

2018.10.23(火) 10:00～12:30 とびうめアリーナ 1階研修室1 にて

講話

「私を知り、様々な人と関係作りができるコミュニケーション術」
オフィスアンド代表 安藤 美智子 氏

【講座概要】

- 無意識下の自分の特性を知るため交流分析 エゴグラム・プロファイル・セルフチェックをしました。エゴグラムでは、どの場面(職場、家庭…)の自分をイメージして答えるかで、結果が変わってきます。今回出た結果から、自分にレッテルを貼るのではなく、"今の自分"を認識することが大切だと学びました。
- 「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」「無意識を意識化することを習慣づける」このワードを講座中、何度も話されていました。
- 無意識でしているが、相手に言葉よりもとても大きな刺激を与えている「態度」「しぐさ」「言い方」などを指す『非言語コミュニケーション』の大切さを学びました。

☆塾生の感想☆

コミュニケーションはまず相手への興味を示すということから!

相手が何か考えている時は下を向いている時に次の質問をしないこと。

コミュニケーションで大切なこと(自分のことを話す、聞いているときの表情、承認すること、意識化)今の自分に足りないものが分かったような気がします。

非言語的コミュニケーションは割とできているかなと思いますが、自分の感情を表現するのが苦手なのでこれから心掛けたいです。

まずは家庭で。夫にはCPに気を付けたい。子供にはFCを伸ばしてあげれますように。

非言語的コミュニケーションの大切さ。

親と対立をしていたころ、ハグをしてもらいたかったことを思い出しました。

～講座の中で感じたこと、印象の残った言葉などをあげていただきました～

～ 第4回講座のご案内 ～

日 時:2018年12月8日(土) 10:00～12:00
場 所:とびうめアリーナ(太宰府市総合体育館) 1F研修室1 ※駐車場有
持参物:筆記用具、講座ファイル
託児変更〆切:2018年11月19日(月)17時まで
申込・問合せ先:
メール sukisuki.ohanashikai@gmail.com Tel 080-9060-1248 (連絡担当芳野)

すきsuki♥コミュニケーション　～第3回講座の内容を紹介します～

2018.11.17(土)10:00～12:00／交流会～13:30　プラム・カルコア太宰府4階多目的ホール

講話　「私の芽を出すヒントを見つける」

講師：（株)MIKIファニット 代表取締役　太刀山　美樹　氏
まほろば自然学校 代表　岩熊　志保　氏
TEAM SEICHOU 代表　高橋　龍矢　氏
コーディネーター：（一社)ママトコラボ　理事　佐藤　倫子　氏

太刀山さんのユーモア溢れる体験談、岩熊さんの生き物達への愛と情熱、高橋さんの論されるような語り口に会場は笑顔と涙が入り混じりました!

【講座概要】
o太刀山さん、岩熊さん、高橋さんより個性あふれる活動紹介をしていただきました。その後、佐藤さんより、笑顔で鋭い切り口のコーディネートで、活動において大切にしていることや資金調達方法など、デリケートな話しまでして頂きました。

☆塾生の感想☆

「命とられるわけじゃない」(太刀山さん)→何を始めるにしてもかべに当たったときに思い出したい。太刀山さんのお話がすごくひきこまれて、ずっと聞いていたかたったです。

人のまきこみ方、育児中でもやりたいことを形にしてきた人の話は大変おもしろく、パワーを頂きました。

「1歩進んだらどげんかなる」(岩熊さん)→
自分だけでは何かを始めることが難しいと思っていたけど、とりあえず1歩ふみだしてみようと思いました。今立ち止まっている自分をつき動かしてくれる言葉だと思った。

人のご縁とやる気。人を喜ばせたい、チャンスに乗る、いろんなご縁が根底にありますね。

「自分の声の届く範囲の人(自分に近い人、親しい人)との信頼関係を築く」(高橋さん)→これができれば、自分の微々たる力だけでなく、大きな力となって事を成せると思ったから。

やりたいことを人に伝えれば、アイディアをもらえる、協力してもらえるということに納得しました。

「何度でもがんばる」→1回だめでも大丈夫の気持ちでいけば、挑戦する力がでてくる。

～　第5回講座のご案内　～

日　時：2018年12月22日(土)　10:00～12:00
場　所：プラム・カルコア太宰府(太宰府市中央公民館)　4F多目的ホール　※駐車場有
持参物：筆記用具、講座ファイル、宿題
託児変更〆切：2018年12月14日(土)17時まで
申込・問合せ先：
　メール sukisuki.ohanashikai@gmail.com　Tel 080-9060-1248（連絡担当芳野）

すき suki コミュニケーション ～第4回講座の内容を紹介します～

2018.12.8(土)10:00～12:00 とびうめアリーナ1階研修室1

講話 「描いたものを伝えよう①」
～会議の進め方を学び、目の前のことを整理する

講師：福岡教育大学/西南学院大学 非常勤講師
一般社団法人ママトコラボ 理事 佐藤 倫子 氏

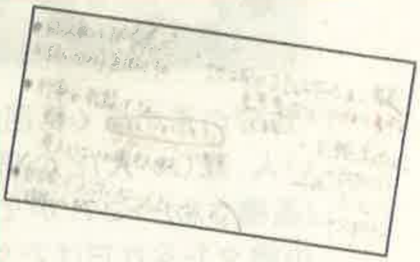
【講座概要】
○会議におけるファシリテーションの方法「書く」「納く」、やりたいことを整理する方法について、実践を交えながら学びました。
○各グループで「自分の気になる地域課題」を共有し、グループで考えたい課題を1つ設定しました。

思考の外在化

「可視化」
→メモで文字にすることで整理できるとわかりました。
→書けば、よくわかって、共有できる。
→わかりやすく、話を進めやすくなった。
→今後、会議の場で使えると思った。

「というと?」「例えば?」
(オープンクエスチョン/クローズドクエスチョン)
→会議の進め方で質問ができないなと思っていたので。
→話が広がった。
→質問に使い分けがあることを知らなかった
→ぜひ使ってみようと思いました。話し合いをスムーズに進めることなど全然知らないことだらけでパワーアップできた気分です。

「聞いたことはそのままメモ」→自分で変換してメモしがちだなと今日気づきました。
→すぐにまとめてしまわない。自分の意見をいいそうなので、反省。



具体的に「太宰府を良くしていきたい」という話に進んでいくのがすごい！楽しい！楽しみ！

地域の役員として、行事の見直しと、これからこの講座で学んだことを生かしたい。

地域の問題化が自分が考えるのと若い人との考えが異なる。

～ 第6回講座のご案内 ～

日　時：2018年1月12日(土) 10:00～12:00/交流会～13:30
場　所：とびうめアリーナ(太宰府市総合体育館) 1F研修室1 ※駐車場あり
持参物：筆記用具、講座ファイル、発表に必要なもの(あれば)
託児変更〆切：2018年 1月4日(金)17時まで
申込・問合せ先：
メール sukisuki.ohanashikai@gmail.com Tel 080-9060-1248 (連絡担当芳野)

すき suki コミュニケーション ～第5回講座の内容を紹介します～

2018.12.22(土)10:00～12:00 プラム・カルコア太宰府4階多目的ホール

講話 「描いたものを伝えよう②
～あったらいいなをカタチにしてみる

講師：福岡教育大学／西南学院大学 非常勤講師
一般社団法人ママトコラボ 理事 佐藤 倫子 氏

【講座概要】

- 「私は○○」というお題で10個、2分以内に書いたものをもとにグループ内で自己紹介をしました。聞き手は、一番気になった項目に下線をひきました。
- 思いをカタチにしていく方法を学びました。話が飛躍しないよう、要所要所でチーム内の思いを共有する作業が大切だということを体験できました。
- 最終回の報告会に向けて、発表の準備を行いました。チーム内で知恵を出し合い、なんとか発表の形に・・・・！

「そもそも」
→自分は話が飛躍していくので・・・
→ここにもどるとぶれないと思ったから。
→いろいろなお仕事や日常でも大切な振り返りだと感じました。

「あるものの組み合わせ」
→無理にないものからひねりださなくてもよいのかなあと思った。

「最初の1歩でOK」
→ついつい大きいことをねらってしまう事が多い。

早く、みんなの、他のグループのアイディアを知りたい！

「公民館を知ろう」
→若い人がすごく積極的に地域に参加しようとしていること。皆さんのバイタリティー

やわらかい頭で色々な意見が出て、自分に比べ、若い人の力を感じた。

地域の行事に参加したいです。

何でももやもやを何人かで真剣に話あって行動に移せば、事はここまで動くのだ!!とわかりました。

発表がんばります！

時間が足りないと思っても、意外とどうにかなると思った！

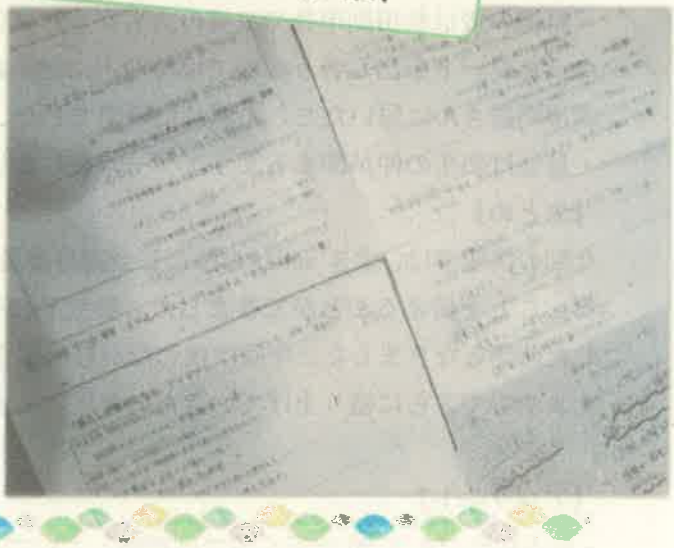
話をまとめる大切さ。

SNSや支援センターを利用して情報を得る。

発信することへの抵抗がさがった。みんなでこの企画やりたいです!!

みんなで力を合わせ、意見を出し合ってうまくまとまり良かったです。

今日もとっても素敵な場をありがとうございました!!! あと1回で終わっちゃうのがさみしいので、もっとみんなでふくらましていきたいです。



～ 塾生の皆様、6回に及ぶ講座おつかれさまでした！ ～

平成30年度福岡県「女性による元気な地域づくり応援講座事業」
「心地よい暮らしづくり“楽”校」報告書

日時：2018年9月29日(土)10：00～12：30

会場：とびうめアリーナ　1階研修室

参加者：女性10名（20代～60代の各年代の方が参加）

プログラム

① 開校式

② 講演「私が幸せを構想すると、未来もっと楽しくなる」

　講師：福津市副市長　松田　美幸さん

③ 振り返り＆交流会

【報　告】

・小さなお子さんをもつママさんが多く参加されました。（0歳～6歳までのお子さんが託児を利用）

・運営はママさんが参加しやすいように講座後のフォローも考慮しました。

・開校式の終わりには1回目参加の塾生全員に前に出てもらい「名前、住んでいるところ、呼んでほしい名前、好きな食べ物」を言っていただきました。皆さん堂々と話をされており、好きな食べ物で笑いが起きる場面もあり会場の空気が和やかになりました。

・講演では松田副市長から今後の講座に繋がっていく軸となるおはなしをしていただけました。内容は世界視点でみると若いリーダーがいること（YouthQuake）、日本での男女共同参画の遅れ、日本は政治参加が先進国では最下位であること、標準家族の変化、昨年から男性の働き方が見直されてきたこと、202030政策、日本人は政治と生活が結びついていないこと、今わたしたちは変化しようとしている中にいること、大変な中だけれども変えていくチャンスであること、どうやったら分かってもらえるか？と考えること、などでした。わたしたちがまちづくりにどのように関わっていけるのか、若い世代ができる役割を示してもらえる大変学びの多い講演でした。

・講演の後は松田副市長や来賓の方もグループに入っていただき振り返りをしました。それぞれの気になったワードを出し合う場面では時間内に話が終わらないほど塾生が話をしていました。松田副市長の講演が皆さんに届いたことを感じた時間でした。

・最後は塾生の仲が深まるようにゲームをしました。短い時間でしたがゲームで盛り上がりました

【まとめ】

今回の講座では、すきsuki♥おはなし会実行委員が塾生と共に考えたいテーマ（生活と政治は繋がっている）ことを伝えることができました。塾生それぞれに届いたと感じる交流会となり短いですが大変充実した時間となりました。今回は残念ながら欠席された塾生が11名おりましたが2回目以降から参加が増えますのでさらに盛り上げていきたいと思います。

【アンケート】

・基本法ができて20年近く頭では理解していても、市民の中でどう仲間作りをしていけば良いかと・・・

悩んでいる中、このような講座を企画して頂きありがとうございます。若いフレッシュな意見を聞くことが勇気につながります。(60 代女性)

・松田様の話、ワクワクしました。私は他市（春日市で）ケアマネやっています。自分の住んでいる太宰府の高齢者施策が他市と比べられることが私の強みだと思います。パブリックコメントも提出しました。子育ても太宰府でやってきました。その子どもが、仕事のために他県にいってしまう現実で残された私に何ができるか考えています。SDG2 もききました（バッチもっています）議会の話にもきくようにしています、今からが楽しみです。(60 代女性)

・もっと待ちの古都に興味をもって、主体的に生きたいと思えました。子どもがいるから社会のことに参加すると迷惑をかける、そんな気持ちの余裕はないと思っていましたが、参加することでみなさんのエネルギーをもらって元気になれそうでワクワクしています。(30 代女性)

・「政治に参加」というとかたくるしい気がしましたが、話をききにいく、パブリックコメントを出してみる、ボランティア、自治会に参加するのもそうなんだと気づかされました。『「子育てを理由に」参加する』という言葉を広めたいと思いました。(30 代女性)

・日本の女性地位が低いのは知っていたのですが図表にあらわしてみるとほんとうに低いというのを実感しました。若い女性の市政に参加される方のお手伝いができればと思っています。(60 代女性)

・今の私に出来ることをやっていないなと思った。例えば、パブリックコメントを投稿したり、広報誌が見やすいとか、ここは分かりにくいとか、感想を市に伝えたり・・・。皆ワイワイしてて笑顔がたくさんみれて良かった♡楽しい講座にしたい！（30 代女性）

・自分自身の生活の変容が、本来の政治の在り方という方向に国自体がうごいていくより、地方自治体が、市民よりそう政策のほうが、よき日本の本来の姿に近づくのではないかと思った。(30 代女性)

・自分のことより私が学ぶことで子どもたちのためになりたいという思いで参加させてもらいました。自分が思いえがいていること以上のことができるような気持になりました。(40 代女性)

・政治について学んでみようと思いました。(50 代女性)

・まず！！最近、自分がどれだけ政治から離れてボーっと生活していたかを実感致しました・・・まさに“政治”と“生活”を自分の中で繋げていくべくせめて・・・たまには市議会を見てみようと思います！！まずは福岡市の HP をチェックしてみます。とっても分かりやすく世界の流れからローカルな流れまで教えて頂きありがとうございました。(30 代女性)

・日本と世界の政治の意識の違いがこんなにはなれていること。政治に参加することの第一歩になりそうです。もっと意識して地域の集まりなどに参加したいと思いました。(30 代女性)

・今まで仕事や子育てに追われてほとんど政治に参加できていなかったことを痛感しました。時間に余裕がある今のうちに、まずは市の政策を知り、今後自分の住むまちを少しでも住みよいまちにできるよう、できることを考えたいです。(40 代女性)

平成30年度福岡県「女性による元気な地域づくり応援講座事業」

「第2回　心地よい暮らしづくり"楽"校」報告書

日時：2018年10月23日(火)10：00～12：30

会場：とびうめアリーナ　1階研修室

参加者：女性19名　男性1名（20代～60代）計20名

講演「私を知り、様々な人と関係作りができるコミュニケーション術」

講師：オフィスアンド代表　安藤 美智子さん

【報　告】

・グループワークを多数取り入れた講座。

・様々な世代の方とコミュニケーションがとれるように、年齢がバラけるよう5グループに分けました。

・グループ内での自己紹介では、第1回講座での参加が半数で、今回が初顔合わせの方が多く、皆さん少し緊張しながらも笑顔が見えていました。

・交流分析を元に、違いを認める→価値観を知る→自分のクセを知る→やり方を変える、ことを学びました。

・無意識下の自分の特性を知るためエゴグラム・プロファイル・セルフチェックをしました。エゴグラムでは、どの場面(職場、家庭…)の自分をイメージして答えるかで、結果が変わってきます。今回出た結果から、自分にレッテルを貼るのではなく、"今の自分"を認識することが大切だと学びました。

・「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」「無意識を意識化することを習慣づける」このワードを講座中、何度も話されていました。

・交流分析では人は3つの心(親、成人、こども)を持っており、それぞれの特性、働きを学びました。

・無意識でしているが、相手に言葉よりもとても大きな刺激を与えている「態度」「しぐさ」「言い方」などを指す『非言語コミュニケーション』の大切さを学び、見直す切っ掛けとなりました。

・最後は、コミュニケーションに関する質疑応答でした。塾生の皆さんは、メモをとったり、熱心に話を聞いたりしていました。

【まとめ】

○エゴグラムでは、知りたい場面での自分の特徴・強味・弱み・改善点・課題を客観的に見ることができました。

○学んだことを、身近な人、夫、子ども、家族にどう活かすかを具体的に学ぶことができました。

【講座後のアンケートより】

・無意識の「意識化」をすること。（30代・40代・60代女性など多数）
・自分の非言語的コミュニケーションの癖、周りからの印象を知ろうと思う。（30代女性）
・セルフチェックをやってみて自分のことを改めて知ることができました。身近な人との会話をもっと大切にしようと思いました。（30代女性）
・自分について考え、知ることができました。（30代・50代女性）
・仕事や家族やボランティアの交流に生かしていきたい。（60代）
・まず主人にやさしく笑顔を意識して接します。(30代女性）
・特に子供の対応を変えていきたいと思います。（40代女性）
・まずは家庭、日頃の関わりのある方々の中で実践。良い意識→無意識化をしていきたい。(30代女性）
・コミュニケーションで大切なこと（自分のことを話す、聞いているときの表情、承認すること、意識化）今の自分に足りないものが分かったような気がします。（30代女性）
・子育てにすぐに活かせる内容で自己分析に活かしていきたいです。（50代女性）

平成30年度福岡県「女性による元気な地域づくり応援講座事業」

「心地よい暮らしづくり"楽"校」報告書

日時：2018年11月17日(土)10：00～12：00　交流会～13:30（自由参加）

会場：プラム・カルコア太宰府　4階多目的ホール（太宰府市中央公民館）

参加者：女性21名（30代～60代）男性1名（60代）の計22名

講演「私の芽を出すヒントを見つける」

講師：㈱MIKIファニット代表取締役　太刀山 美樹さん

まほろば自然学校代表　岩熊 志保さん

TEAM SEICHOU代表　高橋 龍矢さん

コーディネーター:(一社)ママトコラボ理事　佐藤 倫子さん

【報　告】

・講師3人とコーディネーターによる、パネルディスカッション。

感じたこと、気になったことを模造紙にメモしながら公演を聞いてもらい、合間合間に、思ったことや感じたことをグループそして全体で共有していきました。

・最初に、グループ内で自己紹介をしました。

皆さん3回目で慣れてきた様子で、笑い声やジェスチャーが多い賑やかな自己紹介タイムでした。

・次に講師の方々に自己紹介と活動紹介をして頂きました。

岩熊さんは、好きなことをできるところから。助成金を利用した活動や教育現場や学生を巻き込んで活動されています。

高橋さんは、仕事をしながらの活動であり、活動は有志でボランティアでされています。

太刀山さんは、子育てをしながら起業され、子育てをしているお母さんに向けての励ましのメッセージや具体的な乗り越えてきたエピソードを話して下さいました。

・岩熊さん

「何かやりたい！自分でやれることをやればいい！今できることを始めよう！とりあえずやってみよう！と思い、活動を始めた。」

・高橋さん

「地域のボランティア活動や社会福祉活動に関わるようになり、沢山の方々と一緒に活動するようになった。」

・太刀山さん

「相手を変えるのではなく、自分を変える」

「巻き込み型でやっている」

「どげんかなる。」

コーディネーターの佐藤さんが講師の皆さんから話を引き出します。

Q、どうやって人を巻き込んでいったのか。

太刀山さん

「自分でやれる範囲でやれることを始めた。」

「人を巻き込まさせないと！、と思うのではなく、あなたの話聞いてたら、気づいたら紛れ込んでた！、という感じでやってきた。」

「味方がいる。やりださないとスタートできない！」

Q、意思疎通、協力している人の力をどう発揮させているのか。

高橋さん

「全ての関わってる方々との意思疎通は、私一人では厳しい。」

「自分の声の届く範囲、手の届くメンバーにいかに信頼関係を築くか。

自分の力は微々たるものだが、協力して頂ける人の力をドンドン大きくしていく。」

「全く違った切り口で知り合った人。自分が興味を持って協力してくれる方の活動に参加して、そこで信頼関係を築いて逆に協力してもらう。」

意思疎通の大切さ、信頼することの大切さを話されていました。

Q、あの手この手のアイデアはどういう風に浮かぶ？

岩熊さん

「好きなことをしている。身近な人からアイデアをもらってる。」

太刀山さん

「ヒントはいっぱい、至るところにある。お店、飲食店、テーマパーク等。」

「気になる対象の人たちが笑顔になる瞬間を観察している。」

ここでしか聞けない、資金や運営費の話も聞けました。

【交流会】

好きなように座ってもらい、託児を終えた子どもたちと一緒に交流会スタート。

講師の方々も参加して下さり、各テーブルに一人座って頂きました。

食事が一段落すると、自己紹介と今日の感想や、講座では聞ききれなかったことなどを質問されていました。

皆さん話が盛り上がっていました。

【まとめ】

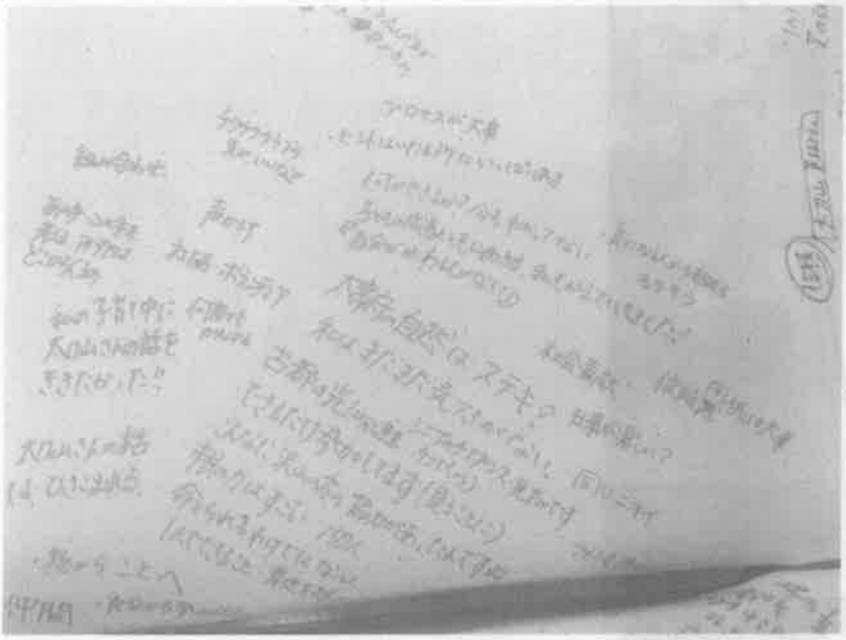
講師の方々の考え方や、行動されていることを聞いて、「何かやりたい！」と思ったことをどういう風に始めるのか、どんなふうに周りの人とやっていったり、巻き込んでいったのかが分かるような講座になったと思います。

当事者の好きなこと、思い、その時の一つ一つの気持ちが大切であること。

やりたいと思った時にあの手この手を考え、それを周りに伝えることや信頼が大切だと思いました。

【塾生が心に残った講師の言葉】

「命とられる訳じゃない」「どけんかなる」「何度でも頑張る」


プロセスが大事
大森の自然はステキ

平成30年度福岡県「女性による元気な地域づくり応援講座事業」
「心地よい暮らしづくり“楽”校」報告書

日時：2018年12月9日(土)10：00～12：00
会場：とびうめアリーナ（1階 研修室）
参加者：女性19名（30代～60代）男性1名（60代）の計20名

講座「描いたものを伝えよう①～会議の進め方を学び、目の前のことを整理する」
講師：福岡教育大学非常勤講師　(一社)ママトコラボ理事　佐藤 倫子さん

【報　告】

・前回のアンケートにて、関心が似ている人をざっくりとグループ分け。

・講座全体のアドバイザーでもあり、前回の講座ではコーディネーターとして参加して下さった佐藤 倫子さんに講師をして頂きました。

・ファシリテーションの手法「書く」「訊く」を学び、やりたいことを「整理する」方法を知りました。

・各自「自分の気になる地域課題」をグループで共有しました。
その際、ファシリテーター役の人が話した人の言葉を模造紙に書いていきました。
それにより、話し合いのプロセスが共有できたり、対等な参加を促進する、「可視化」の効果を体感しました！

・自分たちで出来そうなことで、皆で考えたいテーマをグループで考えました。
ファシリテーター、スピーカー役になり、皆の思いを共有し、その中から一つを選び、テーマを広げました。

皆さん話がどんどん広がって、あっという間に模造紙が文字で埋め尽くされていきました。
次回が益々楽しみです。
～アンケートより～

印象に残ったワードと理由

「可視化」

・考えたことを見える事にすることの重要性が分かった。

・分かりやすく話も進めやすくなった。

「オープンクエッション」「例えば？、と言うと？」

・話が広がる！

・意識して使うことがなかった。

【感　想】

・仕事でも使いたいし、日常の生活の中でも意識できると会話が楽しくなりそう。

・まずはパパと子どもに、「と言うと？」

日時：2018 年 12 月 22 日 10：00～12：00
会場：プラム・カルコア太宰府　4 階多目的ホール（太宰府市中央公民館）
参加者：女性 17 名（30 代～60 代）

講演「描いたものを伝えよう②～あったらいいなをカタチにしてみる」

講師：(一社)ママトコラボ理事　佐藤 倫子さん

【報　告】
・前回の講座でグループに分かれて意見を出しあった地域課題を、第 5 回講座ではグループでさらに意見を整理して、わたしたちの「やりたいこと」の提案を考えました。また、次回の第 6 回講座に向けてプレゼンの準備にとりかかりました。

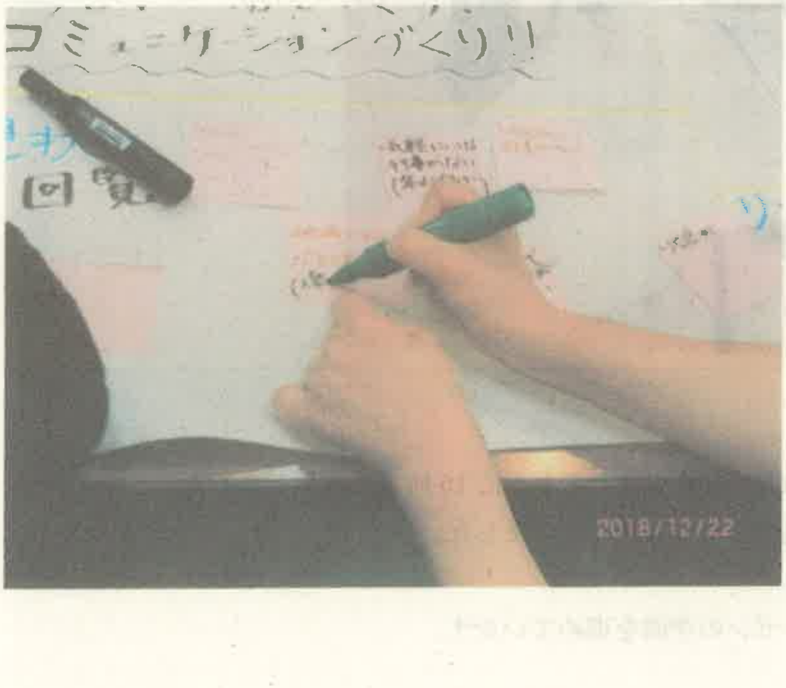
・最初はオリエーテーションです。第 6 回の報告会の内容、発表形式、発表準備の詳細をを塾生に連絡しました。

・グループ内で自己紹介をしました。A4 の白紙に 1 から 10 まで数字を書いて、数字の横に「わたしは～です」の文を書きました。この紙を見せながら発表をしました。

・前回グループごとに地域課題について書き込んだ模造紙を見ながら、グループ皆で振り返りをしました。

・佐藤さんから企画のコツを教わりました。話し合いをしていると、考えていることが飛躍することがあるため自分自身の「そもそも」を大切にすることや、「最初の一歩でOk!」であることの説明がありました。

・用意された模造紙サイズのアイディアシートにグループの中で決まったことを書きこんでいきます。意見を出し合うときはポストイットに書いて貼りだしました。意見が出た後は、ポストイットをカテゴリーで分け整理をしました。「取り組みたい」ことを絞り、選んだアイディアをさらに具体化していきました。



・講座の終了後は、発表の準備で会場を使えるように15時まで解放しました。どのグループも食事を手早く済ませて集中して作業をしていました。

役割を割り振り効率よくプレゼンの準備を進めています。

早いグループはリハーサルまで行っていました！

講座の終了後は託児がありません。子育ての先輩が子どもあやす姿や、こどもたち同士で機嫌よく遊ぶその横でママさん塾生が黙々と動いていました。

【塾生が印象に残った言葉】

・“そもそも“を大切に！！
・「話が飛躍しすぎていないか」をチェック
・あるものの組み合わせ

日時：2019年月1月12日 10：00～12：00　交流会～13:30
会場：とびうめアリーナ　1階研修室
参加者：女性13名（30代～60代）男性1名　計14名

1.一般公開 報告会「楽しくやってみたい、暮らしが豊かになるアイディアがここにある」
2.閉校式
3.交流会

【報　告】
・第4回講座から楽しくやってみたい、暮らしが豊かになるアイディアを4グループに分かれて発表をしました。一般公開のため塾生の家族や市内在住の方、市議会議員が聴きに来られていました。

・最初にオリエーテーションで一般の方に、元気塾の事業概要と経緯、今日の流れの説明をしました。

・グループ発表は10分、質疑応答が5分です。講座が始まる前にくじで決めた順番で発表を行います。

はじめは、チーム名～春夏秋冬～あいあいあいによる「地域のコミュニケーション不足解消への道！！」の発表です。

老若男女の出会いの場が少ないため、コミュニケーションづくりのためのつどいの場を企

画することを提案しました。季節の行事を企画し、その際防災の視点を入れるなど地域の人と繋がるアイディアが発表されました。

・2 番目はチーム名、人と情報をつなげ隊による「太宰府で Happy な子育てができるプレママ&ママのためのプロジェクト」の発表です。

情報があるのに必要な人に繋がっていない、子育て中にどのように情報を得て、どのように活用すればよいのかわからないと困っていることを発表しました。太宰府で子育てをするために人と情報を繋ぐものがつくることを提案しました。

・具体的なアイディアは情報を集めた冊子を作成して、母子手帳の交付の際に冊子を配布することで子育てをする過程に冊子がいき渡るようにしたいことなどでした。

・3 番目は、チーム名、チーム移住者による「ママのための太宰府市内の情報共有マップ作り」の発表です。

・子連れで使える場所が分からないため、市の広報や SNS で発信してもらうことを提案しました。

・未就園児の子持ちのお母さんが対象です。具体的なアイディアは子育て支援センターにアンケート BOX を置いて、お母さんたちから譲歩の提供を呼びかける。その情報を市の広報や SNS を通して発信することでした。

・最後は、チーム名、地域先生☆発掘隊による「地域のじいちゃん、ばあちゃんづくり」です。

・日常の中で困った時、身近に頼れる存在がないことから、挨拶だけでなく「最近どう？」などの会話が出来る関係づくりなど、他にも“健康”、“歴史を知る”、“子供と一緒に”の視点での提案がありました。寸劇を入れたプレゼンを行いました。

・各公民館エリア全ての世帯住民を対象にした具体的なアイディアは公民館ツアーです。地域先生はおじいちゃんおばあちゃんが知っていることを先生になって教えてもらうだけでなく、お母さん、お父さんも先生にしたいことを発表しました。

・４グループの発表終了後、福岡県男女共同参画センター「あすばる」の神崎智子センター長から講評をいただきました。

・報告後のあとは閉校式がとり行われました。ひとりずつ前に出て修了証書が手渡されます。

・塾生全員が太宰府元気塾で発見したこと、これからやってみたいこと発表しました。

・最後に渡辺県議員と太宰府市市長から挨拶をいただきました。

・交流会は皆でお昼の食事からスタートしました。アドバイザーの佐藤さんや渡辺県議員も塾生と一緒にご飯を食べました。元気塾が今後も繋がっていってほしいという話が出ました。

食事の後は佐藤さんから発表の講評をいただきました。講評のことばを胸に、塾生同士で書いていた発表のコメントを見ながらわいわいと振り返りを行っているとあっという間に交流会も終わりの時間です。

元気塾のご縁を繋がっていくこと、塾生のこれらの活躍を期待して塾生が 1 本締めでしめてくださりました。

太宰府市元気塾報告会

Aグループ

「暮らしが豊かになる」アイデアシート　チーム名：地域先生☆発掘隊

タイトル（何をするか、わかるようなもの） 「地域のじいちゃん　ばあちゃんづくり」
目的（誰の、どんな困りごとを解決したい？） Ⅰ困っていること（模造紙に青字で書いた部分をもとに） 日常の中で困ったと思った時、身近に頼れる存在がないこと。 コどうなったらいいか（模造紙に赤字で書いた部分をもとに） 1. 挨拶だけでなく、「最近どう？」「何してる？」等会話が出来る関係作り。 2. 自然に信頼関係ができ繋がれる場ができる。 3. 健康で元気に笑顔で生活できる地域作り。その中「健康」「歴史を知る」「子どもと一緒に楽しめる！」「防災」につながる活動を公民館のエリア内でしていくことで住民との繋がりをつくる！
現状（問題点や背景）（模造紙に黒字で書いた部分をもとに） 1）地域について ・隣の家の人の顔がわからない、顔見知りでない、何をしている人なのかわからない。（挨拶程度） ・信頼できる相談できる環境がない。 ・町内会の仕組みがわからない。 ・プライバシーの問題も気になる。 2）公民館に対するイメージ ・年配の人が行くところだ。 ・自分の区域の公民館がどこにあるかわからない。 3）地域のイベント行事 ・もちつき大会、夏祭りなどイベントはあるが、その後、関係が繋がらない。 ・若い人の公民館活動への参加がそもそも少ない。 ⇒でも、困ったときは頼りたい、頼られる関係を作りたいという気持ちはある。
具体的な内容（「暮らしが豊かになるために」「困りごとを解決するため」にできること） 対象 各公民館エリアの全ての世帯・住民 内容　第1回目『公民館ツアーに行こう！』 ①知る時間 ・公民館の役割（自治会長・区長・館長） ・運営について～公民館を利用している人たちのお話～（サークル、子ども会、教室など） ・公民館の活躍方法を知る（公民館長、公民館主事など） コわいわい時間・交流会 ・次回のアナウンス『校区内でハザードマップや古地図を使った散歩会をします♪』 ※　時間があれば地図を見て、エリアを確認。どんなものがあるか話して共有する。
リソース（協力者など） ・サロン・サークル・自治会長・区長・公民館長・公民館主事・市役所（広報担当部署）・消防署

Bグループ

「暮らしが豊かになる」アイデアシート　　　　チーム名：チーム移住者

タイトル（何をするか、わかるようなもの） ママのための太宰府市内の情報共有マップ作り
目的（誰の、どんな困りごとを解決したい？） ①困っていること（模造紙に青字で書いた部分をもとに） ・子連れで使える場所が分からない。 ②どうなったらいいか（模造紙に赤字で書いた部分をもとに） ・市の広報やSNSで発信してもらう。
現状（問題点や背景）（模造紙に黒字で書いた部分をもとに） ・使えるのに知らない場所が多い！！ ・市内に場所が無いため、市外に行ってしまう。
具体的な内容（「暮らしが豊かになるために」「困りごとを解決するため」にできること） 対象 未就園児の子持ちのお母さん 内容 o お母さん達から聞いた情報を市の広報やSNSを通して発信する。 o 支援センターにアンケートBOXを設置して、情報提供を呼びかける。 o 検診でもらうハンドブックに集めた情報を載せてもらう。
リソース（協力者など）＊ここは第5回目に記入します。 ・太宰府市商工会、先輩のお母さん

Cグループ

「暮らしが豊かになる」アイデアシート　　チーム名：人と情報をつなげ隊

タイトル（何をするか、わかるようなもの） 太宰府でHappyな子育てができるプレママ&ママのためのプロジェクト
目的（誰の、どんな困りごとを解決したい？） ① 困っていること（模造紙に青字で書いた部分をもとに） 情報があるのに必要な人に繋がっていない。子育て中にどのように情報を得て、どのように活用すればよいかわからない。 ② どうなったらいいか（模造紙に赤字で書いた部分をもとに） ママが太宰府でより楽しい子育てをするために人と情報を繋ぐものがあるといい。
現状（問題点や背景）（模造紙に黒字で書いた部分をもとに） ・子育て中の必要な情報が分からない ・情報がどこにあるかわからない（集約場所） ・情報が見にくい、見辛い ・置いてある場所に行くのが難しい人がいる（足がない、バスがない、子連れで大変） ・興味がもてるものが少ない ・母親目線の情報が少ない ・子育て中の母親が気づいていない
具体的な内容（「暮らしが豊かになるために」「困りごとを解決するため」にできること） 対象 妊娠中の母親、乳幼児がいる子育て中の母親 内容 ① 情報を集めた冊子を作成する 1）妊娠中の人も興味を持ち読んでもらえるように、説明を受けないため知らない人が多い母子手帳の便利な使い方を盛り込む。 2）市内の子育て情報を見やすく伝える。困ったときにみてもらえる内容にする。 3）じゃばら折にして母子手帳と保管できるようにする ②母子手帳の交付の際に冊子を配布する 1）受け付けをして交付までの待ち時間が長いことを利用し、このときに配布をする。 2）交付をする場にブースを作らせてもらい、先輩ママと専門の人が直接聞きたい情報を答えることができるようにする ② @（あっと）ラインを活用し、さらに情報が欲しい人に情報が届くようにする 携帯に情報が入るようにしたい方へは、ブースでライン登録出来るようにする。可能なら母子手帳の可愛いカバーなどささやかなプレゼントを渡せるようにする。（登録者を増やしたり冊子を挟み込みやすくするため）（定期的に更新、1〜2回/月）
リソース（協力者など） 保健センター（場所と機会）、身近にいるママ友（企画・実行）、太宰府市子育て支援センター（情報提供、相談）、市役所（配布）、協賛してくれる企業（割引券、試供品など）、サークル（情報提供）

Dグループ

「暮らしが豊かになる」アイデアシート　　チーム名：～春夏秋冬～あいあいあい

タイトル（何をするか、わかるようなもの）

地域のコミュニケーション不足解消への道！！

目的（誰の、どんな困りごとを解決したい？）

①困っていること（模造紙に青字で書いた部分をもとに）

老若男女の出会いの場が少ない。（働く世代、未就園児、高齢者…）

②どうなったらいいか（模造紙に赤字で書いた部分をもとに）

コミュニケーションづくりの為のつどいの場を企画する。

現状（問題点や背景）（模造紙に黒字で書いた部分をもとに）

・隣近所にどんな人が住んでいるのか分からない。

例１）回覧板がノーピンポンで届く。昔の付き合い（直接渡すなど）がない。

例２）隣の人に会う機会がない。

・地域によって、行事の回数、人数などにバラつきがある。

・乳幼児向けの行事が少ない。

・気軽に参加できる行事がない。（年配の方向けが多い）

・災害時に、隣近所の顔を知らないので不安。

具体的な内容（「暮らしが豊かになるために」「困りごとを解決するため」にできること）

対象

老若男女（みんな）

内容

o 気軽に参加できる行事・イベントを企画（月に１回）

・読み聞かせ、手遊びなど→近隣大学・短大の学生に手伝ってもらう

・昔遊び、折り紙、お手玉、紙飛行機、紙鉄砲など　→　地区の年配の方に

・最後にお茶・お菓子を食べながらおしゃべり

※　毎月ではないが、年に１、２回、防災講座をあわせて行う。→市役所防災安全課と連携

o 季節の行事を企画。その際、防災の視点をいれる。

春…防災花見（賞味期限切れそうな備蓄品を持ち寄る）、球技大会

夏…そうめん流し（男の人に役割を。道具づくり）、防災キャンプ

秋…木の実探しをする（まほろば自然学校を参考に）

冬…防災もちつき（炊き出しの練習。）

※防災→炊き出しや安全マップ確認、備蓄品・防災用品を使っての講習会を兼ねる。

リソース（協力者など）

・福岡女子短期大学/筑紫女学園大学/こども短期大学などの学生の方々

・まほろば自然学校/ねたび自然体験農園など、自然体験をサポートしてくださるところ。

・市役所防災安全課の方々、防災士の野田さん

・地区の年配の方々

・地区の働く世代の男性陣